

2022 年度 製鉄記念八幡看護専門学校
自己点検・自己評価 まとめ

検討が必要な部分も残しつつであるが、新・旧カリキュラムの混在による大きな混乱はなく 2022 年度生より新カリキュラムにおける教育をスタートできた。

学校評価については、2022 年度も学生による授業評価、実習評価を年度ごとに行い、看護師等養成所の自己点検・自己評価指針に基づき 2022 年度は教員全員による自己点検・自己評価を行った。2021 年度からは法人の第三者評価委員会を通して、また、ホームページを通して外部への公表を行っている。

I. 教育理念・教育目的（評価平均 2.7）

教育理念は 3 年課程開始の S33 年（1958 年）より同じ理念のもと看護教育を行っている。

教育目的については、現代社会のめまぐるしい動きの中で多様な価値観をもつ人々を対象とすることから看護師に求められる倫理観の育成について新しく加えた。評価平均も 2.7 と高いことから教員間での共有はでき、学生への浸透もできていると考える。

II. 教育目標（評価平均 2.7）

2022 年度のカリキュラム改正においては改正の主旨を盛り込み、新しく教育目標を全教員で検討したことから、評価平均は高く適切であると言える。一部卒業後教育との連動についての共通理解が十分でないため今後、共通理解を図ることが必要である。

卒業時の到達レベルとして期待する卒業生の特性を明示している。

卒業時看護実践力の到達状況 63 回生実習まとめ参照

国家試験合格状況 100% 学校パフレット掲載

就業後の就労状況に対する施設側の評価

法人の病院に 33 名就職し、看護部とは情報交換を行い新人教育との連携を図っている。

法人内では近年、卒業後数年での離職率が高くなっていることから対策を検討している。学校としても在学中に社会人基礎力の育成に重点を置いているが、さらに強化していくことと相談窓口を明確にし特に新人、卒業 3 年目までの卒業生のサポートを行っていく。

卒業後の進学、資格取得、大学編入、大学院入学支援は実施している。

III. 教育課程経営（評価平均 2.4）

「新カリキュラムの基本的な考え方」「各分野の考え方および科目の設定理由」を作成し、教員間での共有と新任教員にはオリエンテーションで提示し説明を行うようにしているが、さらに共有を図る必要がある。科目・単元構成の項では評価平均：2.9 であり、評価基準に則った実践ができています。教育課程評価の体系については評価平均：2.1 と低く、考え方を共有し周知を図る必要がある。

教員の教育・研究活動の充実については、各教員の授業時間（平均 77 時間/年）、実習時間数（平均 25 週/年）は年間計画の中で表示している。教員の移動や退職により授業配分や担当領域が変更する場合もあるが、大きな講義担当科目の変更がないようにしている。授業準備の時間の確保は各教員によって生活背景も異なり一定の基準は設けていない。教員個々のスケジュールの中で準備を行うが、業務の過密さによって時間外労働時間での対応とする場合もある。各専門領域、教育関係など個人で所属する学会においても、各教員 1 回/年の出張を推奨している。各教員は年間 5 万円図書費があり講義実習、専門領域の図書購入を行っているが、十分な活用は行っていない。2022 年度も研修会、学会も会場開催とオンライン開催の併用となり、受講の機会は拡大されたため、積極的に受講し、研鑽を積んでいく必要がある。

社会人入学の学生数は現在少数であるが、教育者として教員のレベルアップを図るためにも教員の大学編入、大学院進学を推奨している。また、中堅教員以上は組織における管理的視点を養うために看護管理者教育課程ファーストレベルの受講を推奨している。

学生の看護実践体験の保障については、新型コロナウイルス感染症の拡大によりこの 3 年間は精神看護学・母性看護学（周産期）実習及び老年看護学実習（施設実習）を臨地で行うことが困難な状況であった。また、母性看護学実習においては新設校や大学の設置により実習の縮小を余儀なくされ現在に至っている。さらに小児看護学実習においても臨地で行う実習時間が減少している。実習施設との

連携に関しては、コロナ禍で従来通りの実習が行えなかったが、患者及び学生の安全確保及び学生の学びの保証を第一に考えた配慮を受けることができた。指導者と教員の協働体制は評価平均：2.0であり、コロナ以前の指導者 ↔ 教員の協力体制を今後、再構築していく必要がある。

IV. 教授・学習・評価過程（評価平均 2.3）

授業の展開過程、教員間の協力体制、目標達成評価とフィードバックに関して評価平均：2.0以下と評価が低い。授業評価を受け、評価の高い点は活かし、低い評価については、次年度に活かすようにしているが、十分でない結果であった。充実した教育活動を行う上での課題として、今後その他の項とも連動させ検討していく。

V. 経営・管理過程（評価平均 2.1）

経営・管理過程に関する評価は全体的に他の項よりも評価が低く、学校組織および運営に関する教員の理解が図れていない結果となっている。特に財政的な基盤に関しては管理者の把握に止まっているといえる。

また、施設設備に関する評価が評価平均：1.1と最低点である。学校の建物自体も老朽化しており、部分的な修復で対応しているところもある。しかしながら、壁の塗り替えやWi-Fi工事も終了し、学習環境の整備には取り組んでいる。管理棟の建て替えも予定されているが、日々保守点検を強化しながら安全に教育活動を行えるよう取り組んでいく。教材に関しては買い換えを順次行っており、モデルなどの高額な教材に関しては必要性を検討し、予算立てするようにしている。自己評価結果から施設設備、福利厚生については管理者だけでなく、全教員で現状の課題を共有できるような働きかけを行う。

学生への支援として、アドバイザー制により学生個々の状況に応じた教育支援体制を強化している。年々学生の背景、家庭環境、経済状況、価値観の多様化、心身の健康面、など複雑になり対応が困難な学生も増えている。教員のみで対応が難しいケースもあり、スクールカウンセラーの活用や法人の臨床心理士からの支援を受け、学生及び保護者対応している。3年次は特に学習面に力を入れ、アドバイザーの学習支援の他、進路・国試担当の教員は年間計画で学力下位の学生の学習支援を強化している。毎年全員国家試験合格を果たしていることからこの取り組みは評価できる。

経済的な支援では、学生支援機構の奨学金に加え、法人の奨学金制度があり半数の学生は活用している。2022年度は高等教育の就学支援新制度の認可を受け、運用を始めた。また2023年度からは法人の奨学金制度を検討し、経済的な支援をさらに充実させた。

自己点検・自己評価体制については十分確立しておらず、外部への公表を機に体制を確立させていく取り組みを始めた。評価平均：1.8と低値である。全教員への看護学校における自己点検・自己評価の意味と目的について理解と周知を図り、体制を確立させていく。

VI. 入学（評価平均 2.5）

入学試験では推薦入試（指定校）、社会人入試、一般前期試験、一般後期試験（H28年度～）を行っている。入学者選抜の方法としては、受験生の特性や入学後の学習状況を見て、成績、単位修得状況など照らし合わせ、分析、検証し学校運営会議で共有している。

学生の募集活動として、広報担当教員を中心にHP、入学案内の作成、学校説明会の企画を行っている。高校訪問については副学校長が推薦指定校、近郊の在校生の高校へご挨拶も兼ねて訪問している。本校への入学生が多いことが高校にとっても受験生にとっても大きな信頼となっていることが感じられる。

2022年度も新型コロナの感染拡大により、学校祭・オープンキャンパスは中止としたが、対面での学校説明会を2回行い（オンライン併用）、業者の行う進路ガイダンスにも積極的に参加し、情報発信を行ってきた。高校生への情報発信の手段としてホームページだけでなくインスタグラム等のSNSをさらに活用していく予定である。

VII. 卒業・就職・進学（評価平均 2.6）

助産師進学者は、2022 年度、1 名。大学編入者はなし。

2022 年度 63 回生 就職状況 卒業生 41 名

製鉄記念八幡病院 33 名

他 外部就職他 7 名

助産師進学 1 名

卒業生 33 名が製鉄記念八幡病院に就職し、看護部との情報交換を行い新人教育のサポートを行っている。特に 2022 年度も領域によっては学内実習中心となった実習もあり、臨地での実習が行えてもベッドサイドにおけるケアには時間的、身体的な制約が多く、実際の看護ケア経験としてはやはり従来と比較して少ない。新人看護師の現状を理解してもらうため、常に看護部との連携を図って来た。今後も継続して情報交換を行い新人離職防止に向け連携を図っていく。

VIII. 地域社会／国際交流（評価平均 2.1）

新型コロナウイルス感染症の流行 3 年目であり、感染予防を図りながら教育活動を拡大してきた。法人が行う地域活動にもボランティアとして学生の参加を呼びかけ、学生と教員がともに参加した。地域活動への参加は新カリキュラムの主旨である地域で生活する人々の健康を支援する看護を学ぶ視点で、非常に有効である。地域・在宅看護論 I では、学校・病院がある地域の現状、実際の生活の場（高齢者が多い、坂道、階段が多い）など八幡東区の特徴を生かした健康支援の提案を考える講義内容としている。さらに、実践まで含む内容を検討し地域に根ざす学校として発展させていく。

また、受験生数の減少が喫緊の課題となっている中では地域への学校アピールにもなり、法人との連携、学生のボランティアに対する興味関心を引き出すきっかけにもなる。近年の傾向としてボランティアを自主的に行う学生は減っているがこれを機に本校の教育の一環として充実させていきたい。

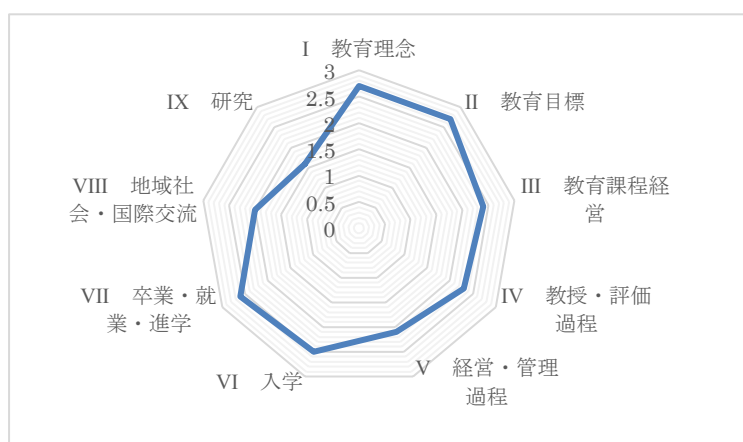
また、国際交流では教育研修で JICA の研修を行い（2 年に 1 回）、実際に青年海外協力隊に参加された方の講演やグループワークや実演を通して国際協力を学ぶプログラムにしている。よりグローバルな視点で学ばせるためにはこの研修から発展させた取り組みが必要になる。

IX. 研究（評価平均 1.6）

2022 年度も研究活動には取り組めず、学会での発表や雑誌への投稿には至っていない。業務改善を図り、年間業務課題の中で、少しずつ教育実践報告から計画的に取り組んでいけるようにしたい。

2022 年 看護師等養成所の自己点検・自己評価指針に基づく評価

I 教育理念	2.7
II 教育目標	2.7
III 教育課程経営	2.4
IV 教授・評価過程	2.3
V 経営・管理過程	2.1
VI 入学	2.5
VII 卒業・就業・進学	2.6
VIII 地域社会・国際交流	2.1
IX 研究	1.6



メジカルフレンド社 看護教育自己評価指針参照